

令和7年3月13日

保護者・地域のみなさまへ

高槻市立第一中学校
校長 安田 信彦

令和6年度 学校評価について(お知らせ)

平素より、本校の教育活動にご理解ご協力賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、令和6年度の学校教育全体を振り返り、学校教育自己診断アンケートの結果及び学校運営協議員の意見を踏まえ、学校評価をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 学校教育目標と中期的目標(令和5年～令和7年)

【学校教育目標】一人のできる自力を鍛え、まわりの人と協力や助け合う関係を築き、学級・学校・社会の課題を解決していく子どもを育てる

【中期的目標】

- (1) 知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性の3つの資質・能力をバランスよく育む。
- (2) 共生社会を創る一員となる豊かな心と健やかな体を養う。
- (3) 学校・地域・社会の課題を解決することができる力を育む。
- (4) すべての大人が協働して子どもを育てることができるよう、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組を推進する。
- (5) 教員の指導力を高める学習指導拠点校(高槻市教育センター委嘱)としての研究を推進する。

2. 令和6年度の重点事項

- ア. 思考力・判断力・表現力等を育成し、生きた知識を獲得する授業づくり
- イ. 一人ひとりの自立や社会参加を支援する特別の教育課程の編成・実施
- ウ. 不登校児童生徒の社会的な自立を支援する校内適応指導教室の整備
- エ. 協力と共助力を育成するカリキュラムの研究(特別の教科、道徳・特別活動の研究)
- オ. 民主主義の担い手を育む生徒会活動
- カ. 自他の安全を守る力を育成する安全教育の推進
- キ. 課題解決力を育成するカリキュラムの研究(総合的な学習の時間の研究)
- ク. 教職員が主体的に研究できる時間の確保(自律性と裁量の確保)
- ケ. 教職員同士が学び合うシステムの確立(研究班の編制)
- コ. 保護者、地域とともに子どもを育てる学校づくり(学校運営協議会の周知、地域学校協働活動の推進)

3. 学校評価

【中期的目標】の(1)～(5)に関する今年度の評価を行います。関連する主な指標に関する評価は3段階(肯定的回答90%以上:◎、70～89%:○、69%以下:△)で評価しています。なお、(1)と(5)については関連が深いので、併せて評価を行います。

【中期目標1】知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性の3つの資質・能力をバランスよく育む。(重点事項 ア・イ・ウ)

【中期目標5】教員の指導力を高める学習指導拠点校(高槻市教育センター委嘱)としての研究を推進する。(重点事項 ア・ク・ケ)

(主な取組) ○ 教育センター委嘱校(学習指導拠点校)として、思考力の育成に関する研究(全教科) ○ 日常的な教員相互の授業参観・研究協議の実施(研究班の編成及び運営) ○ 教員の授業参観週間、研究授業(国・体・道徳)、公開授業(国・理・美・体・総合)の実施
(関連する主な指標) ・ 大阪府チャレンジテストの平均正答率 府平均を大きく上回っている(◎) ・ 「教え方や教材を工夫している先生が多い」 95.1%(◎) ・ 「分かりやすい授業が多い」 90.4%(◎) ※昨年度は(○)
(自己評価) 今年度は、学校の研究テーマを「思考力・判断力・表現力の育成」と設定し、各教員が授業研究に取り組みました。また、研究授業や公開授業を実施し、教員相互の授業参観と意見交換により、教員一人ひとりが、授業づくりの視点を磨き、授業改善に生かすことができました。その結果、各種学力調査においても、平均正答率が大阪府や全国平均を大幅に上回るなど、生徒の学力も向上しています。 支援学級の教科指導や自立活動も指導内容、教材、指導方法等を工夫し、3つの資質・能力を育むことができました。
(改善策) ・ 生きた知識の定着や、思考力・判断力の育成を重視した授業づくりを引き続き行う。 ・ 普段の授業を積極的に公開し、多くの教員の意見を参考にしながらさらなる改善に努める。 ・ 教科会議と研究班による会議を中心に、カリキュラムと教材の研究を深める。 ・ 支援教育については、習熟に応じた学習集団を編成し、きめ細やかな指導を行う。

【中期目標2】 共生社会を創る一員となる豊かな心と健やかな体を養う。(重点事項 エ・オ・カ)
(主な取組) ○ 生徒会による生徒憲章の制定(前期生徒会)、生徒会組織、会則の検討(後期生徒会) ○ 学校行事(校外学習、宿泊行事、体育祭、球技大会)の実施 ○ 男女共修のよる体育授業の実施(通年)、AI等を活用した授業の研究 ○ 部活動の活動内容、時間の検討(1～3月) ○ 危機管理マニュアルの見直し、各種訓練の実施(4,10,11月)
(関連する主な指標) 肯定的回答の割合と、3段階(◎・○・△)で評価しています。 ・ 「学校では、自分の生き方や将来について考える機会がある」 91.4%(◎) ・ 「学校では、命の大切さ、社会のルールやマナーについて学ぶ機会がある」 96.3%(◎) ・ 「生徒会活動に関心がある」 56.3%(△) ・ 全国体力・運動能力調査の体力合計点 42.3 点(△) ・ 「学校では、健康管理や体力づくりに取り組んでいる」 93.3%(◎) ・ 「学校では、定期的に避難訓練や防犯訓練が実施されている」 93.6%(◎)
(自己評価) 学級や学校の一員として、協力し合って学校生活をおくることができています。学校行事も生徒が主体的に取り組んでいます。生徒会活動については、執行部を中心に生徒憲章の策定や快速の見直しを行うなど、自治的な活動が充実してきました。 体力や運動能力に関する調査の結果は全国平均を下回っていますが、体育の授業研究や部活動の指導を通して、運動習慣の定着に努めているところです。 安全面については、アレルギー対応、地震や火災、不審者侵入を想定した訓練も実施し、危機対応時の行動について確認を行いました。訓練により危機管理意識が高まり、組織的に対応できるようになっています。

(改善策)

- ・ 生徒会活動が自治的な活動となるよう、学校行事の企画・運営だけでなく、学校におけるさまざまな問題の発見やその解決に向けた取組を継続して進める。
- ・ 体育については、引き続き小中連携を強化し、体力や運動能力の向上に向け、指導内容や指導方法の研究を進める。
- ・ 部活動については、国や高槻市、学校の活動方針を踏まえた指導を行う。

【中期目標3】 学校・地域・社会の課題を解決することができる力を育む。(重点事項 オ・キ)

(主な取組)

- 探究的な活動を重視した総合的な学習の時間のカリキュラムの研究
- 自分で探究課題を設定する(問いを立てる)力を育成する教材の活用

(関連する主な指標)

- ・ 「総合的な学習の時間に興味を持って取り組んでいる。また、将来に役立つと思う。」 80.2%(○)

(自己評価)

総合的な学習の時間の取組が、探究的な学習となるよう、カリキュラムの見直しを行ってまいりました。また、それぞれの学習において、「課題の設定」や「整理・分析」の場面を重視し、生徒の思考力や判断力の育成に努めました。

生徒の振り返りでは、自分の考え方や学習の価値を確認し、自己の生き方につなげることができています。

(改善策)

- ・ よりよく課題を解決する力が身に付くよう、今年度の学習計画に改善を加え、探究的な学習を充実させる。
- ・ 教科等の学習と関連付けた内容や計画を研究する。

【中期目標4】 すべての大人が協働して子どもを育むことができるよう、小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組を推進する。(重点事項 ウ・エ・オ)

(主な取組)

- 学校運営協議会の開催(6,11,2月)、学校だよりの発行(毎月)
- 校区校園長会及び小中一貫教育事務局会議の開催(通年)
- 教育課程及び生徒指導方針の説明会の実施、保護者による参観、懇談の実施

(関連する主な指標)

- ・ 「教育方針や教育活動について、わかりやすく伝えている」(保護者)90.3%(◎)※昨年度(○)
- ・ 「保護者が授業参観や行事に参加する機会を設けている」(保護者)96.3%(◎)
- ・ 「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)について知っている」(保護者)42.7%(△)

(自己評価)

中学校区のグランドデザインに沿って、計画的に教育活動を行うことができました。また、学校運営協議会の意見をもとに、教育活動の改善を図ることもできました。

さらに、総合的な学習の時間には、地域のみなさまの協力により、充実した学習にすることができました。

全体的に保護者の肯定的な回答が増え、学校・保護者・地域が協働による教育が、生徒の成長を支える好循環になっていると感じています。

(改善策)

- ・ 学校運営協議会や地域学校協働活動(学校の応援団)の充実によって、地域とともにある学校づくりが推進できるよう、これらの活動の周知に努めてまいります。

【その他】 学校におけるいじめ防止等の対策及び不登校支援について（重点事項 オ） （主な取組） ○ 校内教育支援センターの担当者の位置づけ ○ 情報モラル教育の実施（6月） ○ 生活アンケート、意識調査の実施、分析 （関連する主な指標） ・ 「学校では、いじめ防止について考える機会がある」 91.9% (◎) ※昨年度は(○) ・ 「先生はいじめなど私たちが困っていることを真剣に対応してくれる」 95.1% (◎) ・ 「学校では、お互いの人権を大切にすることを学ぶ機会がある」 94.6% (◎) （自己評価） 保護者のみなさまと指導方針や指導内容について共通理解を図り、連携・協力して指導を行うことができたため、生徒の成長につながりました。 不登校については、教育支援センターにおける指導や支援の充実、カウンセラーやソーシャルワーカーとの連携により、生徒の社会的な自立につなげることができました。 （改善策） 失敗やトラブルを教材にして、すべての生徒の権利をお互いに守ることができる生徒の育成に努める。問題を解決するのは生徒自身であり、教員は解決を支えるという視点を大切に、粘り強い指導を行う。 保護者と共通理解を図るために、生徒指導方針の説明会を開催する。

4. 学校運営協議会員のご意見

授業改善について

- ・ 授業参観の機会を増やし、保護者が子どもの様子を気軽に確認できる機会を増やすべき。
- ・ 授業改善により、チャレンジテストの点数も向上している傾向が見られることを評価する。
- ・ 一方で、Chromebookを使った調べ学習の機会が増える中で、インターネット情報の真偽を見極める力を育むことも重要である。

生徒会活動について

- ・ 生徒会活動が積極的に行われており、「生徒会活動に関心がある」という肯定的な回答が上昇傾向にあることを評価する。
- ・ 生徒会活動に力を入れることで、生徒の主体的な活動を促し、自己肯定感を高めることができる。

教員について

- ・ 教員が互いに学び合い、協力し合いながら教育を創造している様子进行评估する意見する。
- ・ 教師のチームワークが生徒の学力向上に大きく貢献している可能性がある。

その他

- ・ 高校における転退学者の増加傾向を踏まえ、小中学校で不登校や登校渋りを経験した生徒の情報を進学先と共有することが必要である。
- ・ 部活動の勝利至上主義からの脱却进行评估する。
- ・ 今後の課題として、サポーターの活用や表現力の育成を挙げる意見がありました。